


I C T 学習教材コンテンツ活用実践事例

		学校名	県立弘前第一養護	学校
授業について	教科領域名 (✓又は■で記入する。)	<input checked="" type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 / 家庭 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習（探究）の時間 <input type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
	単元(題材)名	国語		
	単元(題材)の目標	漢字をおぼえよう		
学習集団と実態	学部・学年・人数	小学	部	5・6 年 5 人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	小学部普通学級5名による学習集団で、国語、算数の教科学習においては、小学校2、3年生程度の学習内容を精選して学習に取り組んでいる。		
I C T 活用について	使用した支援機器・教材の名称	i P a d、プロジェクター		
	使用したアプリケーションの名称	漢字ドリル (小学1年、2年、3年)		
	主な活用の用途 (✓又は■で記入する。)	(複数選択可能) <input type="checkbox"/> コミュニケーション支援 (<input type="checkbox"/> 意思伝達支援 <input type="checkbox"/> 遠隔コミュニケーション支援) <input type="checkbox"/> 活動支援 (<input type="checkbox"/> 情報入手支援 <input type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援) <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 (<input checked="" type="checkbox"/> 教科学習支援 <input type="checkbox"/> 認知発達支援 <input type="checkbox"/> 社会生活支援) <input type="checkbox"/> 実態把握支援		
	I C T 活用のねらい	学習グループを編成して、グループメンバーの漢字の習熟度を確認したところ、かなりばらつきが見られた。そこで、漢字の学習については、同じ漢字を一斉指導で学習するよりは、漢字ドリルのアプリケーションを活用して、個々の児童の習熟度に合わせて進めたほうがよいのではないかと考えた。		
活用の状況と支援	<p>毎時間ではないが、国語の学習の後半10分程度で、個別に学習内容を指定して取り組んだ。漢字の書き方練習では、はじめに線の動きで書き順を提示してくれるので、書き順にも気を付けて、漢字を書く練習を繰り返し行うことができた。また、児童自身がミニテストでどの程度覚えることができたかを確認することができた。</p> <p>活用したアプリは、実施した日時や学習進度もパーセンテージで記録されているので、習熟度具合を教師側で把握することができるという点もよいと感じた。</p>			